

1. 科目名（単位数）	臨床心理学（中等）（2 単位）	3. 科目番号	EDPS3305
2. 授業担当教員	後藤 進吾		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	臨床心理学とは、人間がより健康的に生きるために心理学の知見を大いに活用する学問のことである。心理学の分野のなかでも、特に実践的かつ応用的なものであり、そのため、学問の全体を学ぶことはなかなか大変な事柄である。そこで本講義では、臨床心理学を支える専門知識として、①面接、②査定、③地域援助、④研究の 4 点を取り上げ、その理解を主な目的とする。そして時間の許す限り、教育、福祉、医療、社会における臨床心理学の役割、たとえば健康の維持や予防について言及する予定である。 ※養護教諭、高校教諭（公民）を希望する学生等が履修します。		
8. 学習目標	臨床心理学とはどのような学問体系かわかるようになる。 1 臨床心理学の構造を理解し、説明することができる。 2 面接、査定、地域援助、研究のそれぞれについて理解し、説明することができる。 3 面接と査定については、理論とあわせ実践に役立つ技術についても理解し、説明することができる。 4 地域援助は、教育、福祉、医療、社会の領域における臨床心理学の役割について理解し、説明することができる。		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	事前学習において、授業で取り扱う事柄のキーワードについて調べ、自身の経験・体験も踏まえ思考を巡らせておくこと。また講義時に毎回配布するワークシートで復習をすること。 課題レポートとして、毎回の講義時に200~300字程度を上限に、コメントペーパーの提出を求める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】特に指定しない。 その他の参考図書については講義中に適宜紹介します。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 臨床心理学の構造、面接、査定、地域援助について理解し、説明できる。 2. 臨床心理学の役割を理解し、学んだことを実践の場でどのように応用するかを考察できる。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 1 授業態度と参加姿勢 総合点の20％ 2 試験 総合点の40％ 3 課題レポート 総合点の40％		
12. 受講生へのメッセージ	初回授業では受講ルールや成績評価の詳細を説明します。受講希望者は必ず第一回目の授業に出席してください。なお、受講態度と課題への積極的な取り組みを評価しますので、授業内容に関連しない私語・居眠りや携帯電話、スマートフォンの使用、事前に通知のない欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 臨床心理学とは？：基礎と成り立ち (1) 臨床心理学とはどのような学問か (2) 臨床心理学の対象はどのような人々なのか 第1回では、講義に関するオリエンテーション（評価方法や課題レポート、試験の概要について）を冒頭に実施し、その後、臨床心理学という学問がどのような学問で、どういった人を対象にし、何に役立つのかについて概観する。	事前学習	シラバスに目を通し、評価方法や受講ルールに確認しておくことを必須とする。 また「心に異常がある状態」とはどのような状態かについて、自身の考えを整理しておくことを求める。
		事後学習	講義の内容に関して、人の心の病に関する自身の考えを整理しておくことを必須とする。
第2回	学校現場で生じる心の問題 (1) 発達の過程で生じる問題 (2) 子どもや家族の問題 (3) 教職員のメンタルヘルスの問題 第2回では、上記の(1)～(3)について現代社会における問題に触れながら理解を深めることを目的とする。	事前学習	学校現場を取り巻く「心の問題」に関して、左記の授業内容を参考にし、インターネットや新聞記事、SNS 等で情報収集をし、内容を整理しておくことを必須とする。
		事後学習	教職員のメンタルヘルス問題に関して、現状を把握するための調べ学習を行うこと。
第3回	心の問題と向き合う・抱える (1) ストレスマネジメントと自己理解 (2) 人に寄り添うとはどのようなことか（ワーク） 第3回では、上記の(1)～(2)について取り扱う。 (1) では、具体的に自身のストレスマネジメントの方法にどのようなものがあるのかについて内省を深める。 (2) では、他者に寄り添ってもらうということがどのような体験なのかをワークを通して実感を深める。	事前学習	自身のストレス（取り組んだり、向き合うことで自分の心に負担になるものごと）にはどのようなものがあり、普段そのストレスにどのように対処しているのかについて内省し、整理しておくことを必須とする。
		事後学習	自身のストレスマネジメントについて見直し、新しくどのような対処法や解消法があるかについて検討すること。
第4回	心理アセスメントの基礎：教室内でどこを見るのか (1)「問題」を軽減するためのアセスメント (2) 教室内で取り組めるアセスメント 第4回では、上記の(1)～(2)について取り扱う。 特に、学校の教室内で、簡易に取り組めるアセスメント	事前学習	自分が教員だった場合、教室内の子どものどのような行動が気になるか、またその行動が気になる理由は何かについて、内省を深め整理しておく事を必須とする。
		事後学習	教室内でする観察の観点について、講義内

	はどのようなものなのかについて、「観察」という方法を掘り下げて学ぶ。		容をまとめ、要点をおさえておくこと。
第5回	心理アセスメントの応用：教室内でどのような行動を観察するのか (1) 対象の行動を理解するために必要な情報 (2) 対象の行動を支えるために必要な行動 第5回では、上記の(1)～(2)について取り扱う。 学校の教室内では時として、なぜそのような行動を対象児童生徒がとっているのかを考えることが難しいことが往々にして生じる。今回では、そのような行動を支援者としてどのようにアセスメントし、関わるといのかについて理解を深めることを目的とする。	事前学習	算数の宿題に取り組まない小学校3年生男児がいたと過程し、なぜその男児が宿題に取り組まない状態が生じているのかについて、仮説を立て、仮説を検証するために必要な行動はどのようなものかを検討してくることを必須とする。
		事後学習	講義の内容をまとめ、自身の「普通」「定型」という価値観に関して内省を深め、自己分析を実施しておくこと。
第6回	心理アセスメントの応用：教室内でどのように行動を援助するのか (1) 望ましい行動を育てるための考え方 (2) スモールステップという考え方の見直し 第6回では、上記の(1)～(2)について取り扱う。 特に(2)においては、具体的に自身の日常的な目標(変えたい行動)を採り上げ、応用行動分析におけるシェイピングの考え方をを用い、達成のためのステップを検討する。	事前学習	自身の考えるスモールステップの援助とはどのようなものなのかについて、具体的な場面を想定し、自身の考えを整理しておくことを必須とする。
		事後学習	講義内で作成した自身の目標に対するスモールステップに対して見直し、その上で達成の可否について検討すること。
第7回	心の病気①：不安障害 (1) 心の病気と身体の病気の違い (2) 不安障害ってどんな病気？ (3) 児童生徒と心の病気 第7回では、不安障害について取り扱う。不安障害はどのような病気なのかや、不安障害と児童生徒との関わりについて概観する。	事前学習	不安障害について、どのような媒体でもよいので自身で調べ学習をし、まとめておく事を必須とする。
		事後学習	事前学習で調べたことと、講義で学んだことを比較し、その相違について整理しておくこと。
第8回	心の病気②：気分障害 (1) うつ病ってどんな病気？ (2) 躁うつ病ってどんな病気？ 第8回では、気分障害について取り扱う。気分障害に含まれるうつ病や躁鬱病はどのような病気なのかや、どのような症状を呈し、どのようなケアが必要なのかについて概観する。	事前学習	うつ病および躁うつ病について、どのような媒体でもよいので自身で調べ学習をし、まとめておく事を必須とする。
		事後学習	事前学習で調べたことと、講義で学んだことを比較し、その相違について整理しておくこと。
第9回	心の病気③：統合失調症 (1) 統合失調症ってどんな病気？ (2) 統合失調症の人の体験している世界？ 第9回では、統合失調症について取り扱う。統合失調症はどのような病気なのかや、統合失調症と児童生徒との関わりについて概観する。	事前学習	統合失調症について、どのような媒体でもよいので自身で調べ学習をし、まとめておく事を必須とする。
		事後学習	事前学習で調べたことと、講義で学んだことを比較し、その相違について整理しておくこと。
第10回	心の病気④：摂食障害 (1) 摂食障害ってどんな病気？ 第10回では、摂食障害について取り扱う。摂食障害はどのような病気なのかや、発病のきっかけ、摂食障害と児童生徒との関わりについて概観する。	事前学習	摂食障害について、どのような媒体でもよいので自身で調べ学習をし、まとめておく事を必須とする。
		事後学習	事前学習で調べたことと、講義で学んだことを比較し、その相違について整理しておくこと。
第11回	受容・共感とは (1) 受容とは (2) 共感とは (3) 対人援助職における受容と共感 第11回では、上記の(1)～(3)について取り扱う。 学校現場においてもRogers,C.,Rのカウンセラーの3条件とされるような態度は往々にして求められるものであるが、それらの言葉尻と実際に求められていることの乖離を理解することを目的とする。	事前学習	自身の考える「受容」や「共感」とはどのような行為を指すのかについて、自身の考えを整理しておくことを必須とする。
		事後学習	講義を受けて、対人援助職として求められる受容や共感はどのようなものなのか、一般的な受容・共感という態度とどのような違いがあるかについて整理し、まとめておくことを求める。
第12回	問題への介入：学習に関する問題 (1) 学習の問題への対応を考える基本 (2) 学習への困難さの背景 第12回では、上記の(1)～(2)について取り扱う。 特に、学習の困難さを抱えている児童生徒が日頃どのような体験をしているのかについて、ワークを通して体験的な理解を深めることを目的とする。体験的な理解を得た上で、対人援助職としてはどのような態度でいるとよいかについても検討する。	事前学習	学齢期(小学生から中学生)で学習のつまずきが出るとしたら、どのような部分から「つまずいていること」をキャッチするかについて、自分の考えを整理しておくことを必須とする。
		事後学習	講義内で実施したワークで体験した内容に関して内省を深め、文章化しておくこと。また、学習のみならず教室内で困難さを抱える児童生徒に対して、どのような想像を働かせる必要があるかについて、自身の考えを整理しておくこと。

第 13 回	問題への介入：スクールカウンセラーの利用 (1) スクールカウンセラーとは (2) スクールカウンセラーの仕事 (3) スクールカウンセラーに相談する時の一工夫 第 13 回では、上記の (1) ～ (3) について取り扱う。 学校内で生じたさまざまな問題に対して、スクールカウンセラーをうまく使えることは、子どもの適応だけではなく、教職員のメンタルヘルスにも寄与すると考えられる。本回では、スクールカウンセラーは学校に対してどのような役割を担っているのか、どのように利用すれば教職員の負担軽減につながるのかについて取り扱う。	事前学習	スクールカウンセラーは、学校内でどんなことをしてくれるのかについて、現在自分自身が持っているイメージを整理しておくことを必須とする。
		事後学習	講義を受けて、スクールカウンセラーと教職員、そしてその他の専門職が適切に連携を深めるためには、どのような態度や知識が必要かについて整理しておくこと。
第 14 回	相手の体験に寄り添う (1) 寄り添うという体験 (2) 寄り添ってもらうという体験 (3) 対人援助職における寄り添い 第 14 回では、上記の (1) ～ (3) について取り扱う。 人のことを援助する場合、援助者自身も他者から適切に援助された体験が必要不可欠である。本回では、「寄り添う」ということは一体どのような体験なのかについて深めることを目的とする。	事前学習	自身の考える、現時点での「相手に寄り添う」とはどのようなことか、それはどのような相手にも実行可能なことかについて、内省を深めておくことを必須とする。
		事後学習	今回の講義を受けて、児童生徒との関係性を構築するにあたり、どのような姿勢、態度、知識が求められるのかについて整理しておくこと。
第 15 回	これまでのまとめ 第 15 回では、これまで講義で取り扱った内容に関して、学習内容の定着を確認するための試験を実施する。 試験範囲は第 1 回～第 14 回までの講義内資料からの出題とする。試験実施後、その場で模範解答と解説を加えることで、これまでのまとめとする。	事前学習	これまでのまとめの試験に備え、学習内容を整理し、自身の課題の提出状況等に関して確認しておくことを必須とする。
		事後学習	試験で間違えた内容に関して、該当部分の資料を見直すこと。